

「徳川時代」の遠州流茶道

工芸、建築にも影響

静岡で講演



講演する小堀宗実さん＝13日午後、静岡市葵区の市民文化会館

遠州茶道宗家13世家元小堀宗実さんの「徳川時代の茶の湯―遠州の綺麗(きれい)さび」と題した講演会(徳川みらい学会主催)が13日、静岡市葵区の市

民文化会館で開かれた。小堀さんは「綺麗さを大切にす今日茶道の基礎となった」と述べた上で、工芸や建築にも影響を与えていると説明した。

遠州流茶道の流祖は江戸時代初期の大名茶人の小堀遠州。駿府城の作事奉行を務めた功績により「遠江守」の地位を与えられ、「遠州」と呼ばれるようになった。書画や和歌、美術工芸にも造詣が深い総合芸術家として知られる。